

オーストラリア・ニュージーランド 08

オーストラリア オーストラリアは2007年12月、11年半にわたるハワード政権からラッド労働党政権に交替した。前政権はハワード首相、コステロ財務相、ダウナー外相の3人で動いていたが、外交では親日的だったハワード政権から中国寄りといわれるラッド首相の突出ぶりが気になるところだ。

日本のメディアはラッド首相の親中国ぶりや就任直後の京都議定書への調印（オーストラリアは米国とともに調印をしていなかった）、ラッド首相の広島訪問あるいは捕鯨問題での日豪間の摩擦に紙幅をさくものの、太平洋全域にわたり米国に続く軍事同盟を結んだ日豪安全保障条約の調印（2007年3月）の重要性を解くことはなかった。

2007年から08年にかけてオーストラリアの新聞界にかかわる大きな出来事は、マードックのニュース・グループがトムソン＝ロイターの合併に対抗して、世界有数の経済紙『ウォール・ストリート・ジャーナル』を発行するダウ・ジョーンズ社を傘下に収めたことである。

第2にオーストラリアを代表する時事週刊誌ブレティン(The Bulletin, 57,000部, ACP)の休刊である。1880年1月31日、J.F.アーチボルドとJ.ヘインズにより創刊された同誌は雑誌界最長の128周年を迎えた2008年1月29日号を最後にその歴史に幕を閉じた。メディアモガルのフランク・パッカー卿が1960年同誌を買い、その後を継いだ息子のケリー・パッカー氏の死(2005年)や発行部数が90年代までの10万部の部数が半分近くに低迷していること、三代目となるジェームズ・パッカーのメディア再編により見放されたことなどが理由であろう。近年は米国誌Newsweekと合併で、「半分はアメリカ雑誌」と揶揄されもしていた。1960年に、アーチボルド以来白豪主義ナショナリズムだった同誌の編集長として就任した、「ラッキー・カンントリー」のドナルド・ホーンが、表紙にあった「Australia for the White Man」という言葉を削除させた逸話が懐かしい。

とは言うものの、マードック、フェアファックスに続く第3のメディア・グループとして、テレビ媒体9ネットワークや雑誌媒体ACP(旧PBL)をもつConsolidated Media Holdings(CMH)は依然としてジェームズ・パッカーの存在を示している。マードックがこのCMHにも触手を伸ばしつつある。

一方、フェアファックス・メディアは昨年ルーラル・

プレスと合併し、着実に成長の歩みを始めた。オーストラリアではThe Sydney Morning Herald, The Age, The Australian Financial Review, The Canberra Times, BRW, The Sun-Herald, and The Land. ニュージーランドではThe Dominion Post, The Press, The Sunday Star-Times, TV Guide, NZ House and Garden, and Cuisineを所有。07年11月にはシドニーの人気局2UE、同メルボルン3AWなど大都市に7AM/FM ラジオ局をもつサザンクロス放送局を獲得した。グループとしては20年ぶりにラジオ媒体を傘下に置くことになるが、前述の2局はシドニー・モーニング・ヘラルド、ジ・エイジというフェアファックスの代表紙のカバレッジと一致しており、広告媒体としての有効性がある。

さらに西オーストラリア州でオンライン新聞WAtoday(<http://watoday.com.au/>)を始めた。創業以来東海岸のみで生き抜いてきたフェアファックスが、マードック系と西オーストラリア新聞社が強力な地盤をもつパースに侵攻したわけであるが、もはや紙媒体でなくサイバースペース上での競争の時代である。

ニュージーランド ニュージーランドでは、二大メディア・グループのひとつAPNが傘下にある新聞の編集制作工程を外部委託することになったことが話題をよんでいる。APNは同国最大の発行部数をほこるニュージーランド・ヘラルド(194,000部)を筆頭に23日刊紙、100以上の非日刊紙をもつ。委託先のページマスターズ・ニュージーランドはオーストラリアの通信社AAPの子会社である。人件費の節約や効率の向上に向けての新政策ではあるにしても、ローカルニュースに精通しない編集が行われてしまり、ニュースの質の低下になるとの意見もある。APNの本家はアイルランドに本拠をおくオライリーのインディペンデント・ニュース・アンド・メディアで、グループ傘下の新聞も程なくこの外部委託を始めるという。

オーストラリアの新聞発行データ 2007

(前年比)

全国・大都市日刊紙(月一金)	226万部	-0.4%
同 土曜日版	295万部	-1.4%
大都市日曜紙	342万部	-0.6%
地方日刊紙	57万部	-1.7%

発行部数は2007年10月-12月期(ABC)。日刊紙の土曜日版は平日版の1.2から1.5倍の発行部数をもつものがある。最大発行部数は平日、土曜紙ともヘラルド・サン(メルボルン、平日=53万部、土曜=51万部)、日曜紙はサンデー・テレグラフ(メルボルン、67万部)

上智大学文学部教授 鈴木雄雅(すずき・ゆうが)